

ロマプリータ地震調査から

梶 秀 樹

(筑波大学教授)

(消防力配置システム
研究委員会委員長)

柱や梁が補強された人気のない建物を前に、「壊れるべくして壊れたという感じなので余り参考にならないんですよ。」といいながら、南教授（東大地震研）は、今回の地震による被害建物の構造上の欠陥について説明してくれた。マリナー地区で木造3、4階建ての建物に多くの被害がでたが、液状化の影響もさることながら、一階部分を駐車場としているため耐力となる壁が全くなく構造的にアンバランスであったこと、オークランド市内での200棟におよぶ商業建築の被害の大半は、鉄骨煉瓦造で水平力にはそもそも弱いことなど、いずれも日本では考えられない構造の建物であった。

11月26日に日本を離れたわれわれ東京都のロマプリータ地震調査団の目的は、地震後40日も経っているので、被害の状況を見るのではなく、その後の復旧状況を調べることにあった。ベイブリッジは18日に開通し、死者40人を出した880号線はすでに撤去されていたが、全ての建造物の被害状況を目に見えない部分も含めて点検し、そのまま使えるか、補修が必要かを判定し二次災害を防ぐことはやはり相当の時間を要し、サンフランシスコ市、オークランド市ともようやくその作業を終え、被害の全容を把握するとともに、応急補修と取り壊しをひとまず完了して、これから本格的復興に取り掛かろうとしている段階にあった。

ところで今回の地震では、火災の発生が報道されていたので、件数、原因などその詳細が知りたいものと、先発調査団の報告をいろいろ聞いて回った。しかし、一人ひとりいうことが違って、1カ月経ってもどれが本当だか一向にはっきりしたことが分からない。サンフランシスコ市に限ってみても、小火も含めた火災発生件数は22件といい、いや25件だといい、その内消防が対応したのは2件だ、4件だと全く埒があかない始末。現地に来てようやくサンフランシスコ市の消防局とアボがとれたのでこれではっきりすると、さっそく質問してみた驚いた。最初に対応してくれた広報担当官は27件だという。ではその分布が知りたいというと、警防部長を呼んで来て再度確認したところ、結局、当日の火災としては26件だと分かった（翌日に13件発生している）。しかも、それらは全て911番の通報を受けたもので、したがって一応消防隊が出向いており、わが国でいう炎上火災に相当する。その内延焼火災となったのはマリナー地区の1件のみで6棟31戸が焼失したということであった。所轄消防の内部でさえきちんとした数字が周知されていないことに驚くと共に、これでは日本でいくら情報を集めてもはっきりしないのは当たり前だと納得した。個々の火災の通報時刻、原因など詳しい情報を後日送ってもらう約束をして、この数字もまた変わるかも知れないと、一抹の不安を抱きつつ消防局を辞去したのであった。